

あなたの町の国有林

北薩流域における国有林野事業の取り組み



九州森林管理局
北薩森林管理署

北薩流域の概要

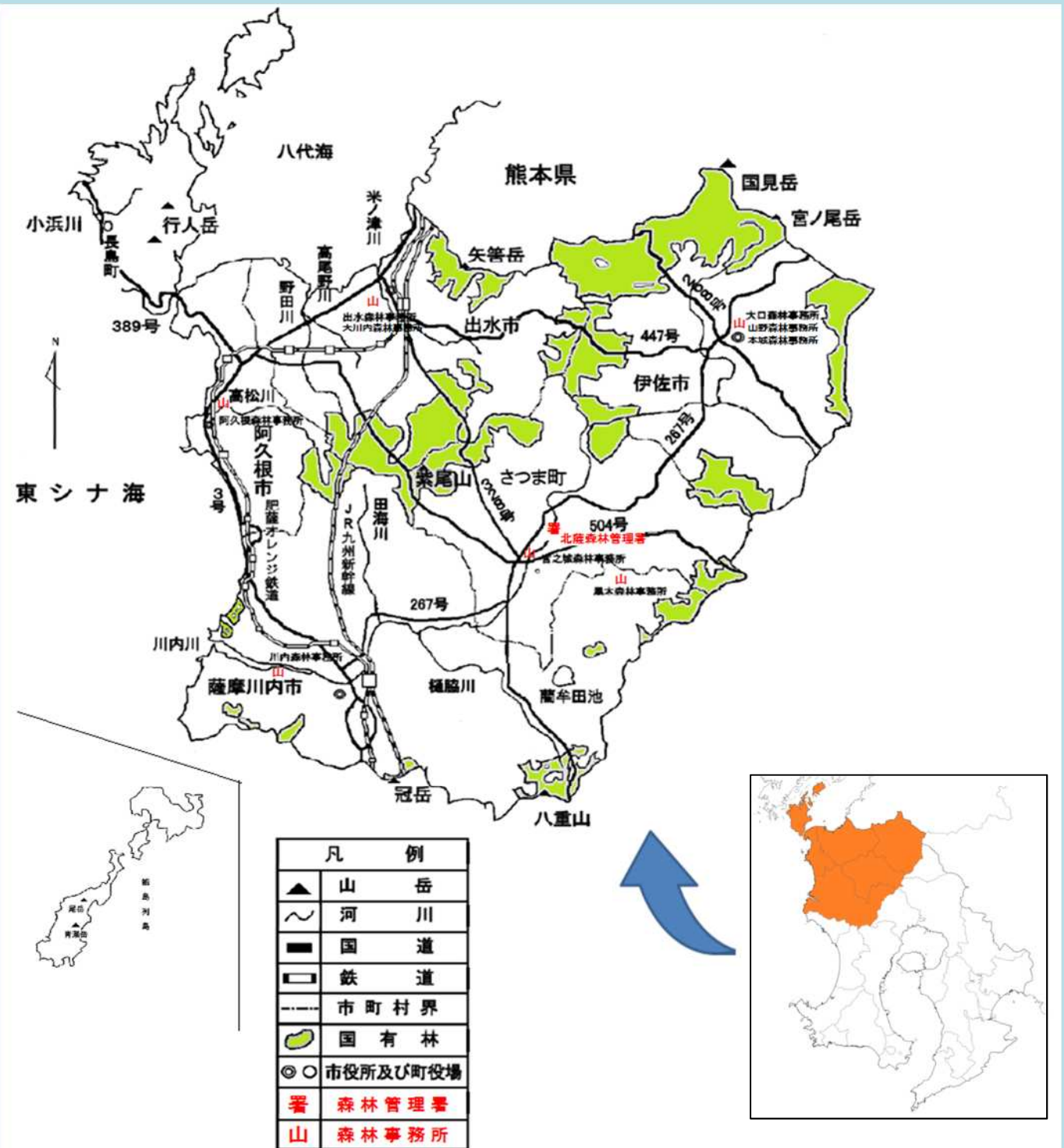
北薩流域は、鹿児島県の北西部に位置し、薩摩川内市、阿久根市、出水市、伊佐市、さつま町、長島町の4市2町で構成され、区域面積は195,983haで鹿児島県総面積918,701haの21%を占めています。

気候は、伊佐盆地、宮之城盆地を中心とする川内川の上・中流域は内陸性の気候で、その他の地域は海に接し温暖な気候となっています。

河川は、熊本県の白髪岳を源とする川内川が伊佐盆地、宮之城盆地の中央を流れ、川内平野を潤しながら東シナ海に注いでいます。また、紫尾山系を源流として米ノ津川、高尾野川、野田川が出水平野を形づくり八代海へ注ぎ、高松川は東シナ海へ注いでいます。

北薩流域の国有林は、薩摩川内市、阿久根市、出水市、伊佐市、さつま町の4市1町に広がる32,573ha(流域森林の約24%)で、北薩森林管理署と9の森林事務所で管理経営しています。国有林は大部分が川内川の各支流上流域で、熊本県・宮崎県に接した山系から、始良地域に接する山系及び北薩地域中央部の紫尾山(1,067m)周辺を中心に標高500m以上の区域に多く位置しています。林況は、人工林がスギ、ヒノキで約68%、天然林は紫尾山や奥十層等に広がり、景観や森林浴が楽しめる森林となっています。

北薩森林管理署管内図



国有林の管理経営に関する基本方針

(1) 公益重視の管理経営の一層の推進

重視すべき機能に応じた管理経営の推進

■ 機能類型区分

- ・ 国有林野を重視すべき機能に応じ、山地災害防止、自然維持、森林空間利用、快適環境形成、水源涵養の5タイプに区分し、公益林として管理経営

山地災害防止タイプ : 山地災害防止機能

自然維持タイプ : 属地に係る生物多様性保全機能

森林空間利用タイプ : 保健・レクリエーション機能、文化機能

快適環境形成タイプ : 快適環境形成機能

水源涵養タイプ : 水源涵養機能

- ・ 木材等生産機能については、区分に応じた適切な施業の結果得られる木材を計画的に供給することにより発揮

■ 治山事業の推進

- ・ 国民の安全・安心を確保するため、重要な水源地域等において治山事業を計画的に推進
- ・ 大規模な山地災害発生時には技術を有する職員を派遣

■ 路網整備の推進

- ・ 林道(林業専用道を含む)や森林作業道について、それぞれの役割や自然条件、作業システム等に応じて適切に組み合わせた整備を推進

地球温暖化対策の推進

国際的に合意された森林吸収源の算入上限値である年平均3.5%の吸収量を確保するため、引き続き、間伐の実施を促進するとともに、主伐後の確実な再造林も含めた造林の実施を促進

生物多様性の保全

- ・ 国有林野内の原生的な天然林等を保護・管理することにより、森林生態系からなる遺伝資源保護のため、4つの保護林を設定しています。
- ・ 地域の農林業や生態系に多大な被害を与えている野生鳥獣について、地域の関係行政機関等と連携しつつ、捕獲などによる積極的な個体数管理や共存に向けた森林整備を推進

(2) 森林・林業の再生に向けた貢献

低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

- ・ 地域ごとの傾斜等の地形条件や資源状況の違いに応じた低コストで効率的な作業システムの提案・検証や民有林における普及・定着



民有林と連携した施業の推進

- ・ 民有林と連携することで事業の効率化等が図られる区域について、森林共同施業団地を設定
- ・ 民有林野と連結した路網の整備や計画的な間伐等の実施、民有林材と協調した出荷

森林・林業技術者等の育成

- ・ 専門的かつ高度な知識・技術と現場経験を有する森林総合監理士(フォレスター)等を育成
- ・ 事業発注やフィールド提供等を通じた民有林の人材育成を支援

林業事業体の育成

- ・ 林業事業体の生産性の向上を図るため、作業システム等を分析
- ・ 林業事業体の創意工夫を促進するため、総合評価落札方式等を活用

林業の低コスト化に向けた技術開発

- ・ 民有林経営への普及を念頭に置いた林業の低コスト化等に向けた技術開発の推進
- ・ 実用段階に到達した先駆的な技術等について事業レベルでの試行及び実施



コンテナ苗とその植付

林産物等の供給

- ・ 木材利用の促進や木材の安定供給体制の構築等が図られるよう、価格や需給動向を把握しつつ持続的・計画的に供給
- ・ 価格急変時の供給調整機能を発揮するため、地域や関係者の意見を把握するなどの取組を推進
- ・ 未利用間伐材等について、システム販売を活用した安定供給や低コスト搬出システムの確立等により木質バイオマス資源として供給

(3) 国民の森林としての管理経営、地域振興への寄与等

「国民の森林」としての管理経営

■ 双方向の情報受発信

- ・ 署のホームページ等により、国民に対し森林・林業に関する情報や普及啓発に努めるとともに、地域管理経営計画の策定等の機会を通じて、広く国民等の意見を聴取

■ 森林環境教育の推進

- ・ 【森林教室】等を活用し、森林の多面的な機能に関する普及啓発や森林・林業の体験活動等を実施

■ 森林の整備・保全等への国民参加

- ・ NPO等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供
- ・ 企業等による社会・環境貢献活動としての「法人の森林」の設定



職員による森林教室（紙芝居）

地域振興への寄与等

■ 国有林野の活用の適切な推進

- ・ 地域の産業振興に資する国有林野の活用等により地域振興へ寄与
- ・ 国土の保全や生物多様性の保全に配慮しつつ、再生可能エネルギー源を利用した発電に資する活用や地域のバイオマスエネルギー源としての共用林野制度の活用の推進



風力発電用地としての国有林野の活用

北薩流域の国有林データ

※ 令和2年3月31日現在

(1) 市町村別・機能類型別国有林面積

(単位:ha)

市町名	重視すべき機能に応じた森林のタイプ						官公造林	民有林面積	区域面積
	山地災害防止	自然維持	森林空間利用	快適環境形成	水源涵養	計			
薩摩川内市	218		162		2,963	3,343	551	43,043	68,292
出水市	1,712	23	2		6,980	8,717		12,655	32,998
阿久根市	129				1,331	1,460		6,723	13,429
伊佐市	2,595	45			10,316	12,956	144	14,909	39,256
さつま町	1,450	12			3,870	5,332	400	15,776	30,390
計	6,104	80	164	0	25,460	31,808	1,095	93,106	184,365

※1 タイプ別及び官公造林の面積は、第6次国有林野施業実施計画書による。なお、端数の影響で計と一致しない。また、タイプ別面積に竹林は含まない。

※2 民有林森林面積及び区域面積は北薩国有林の地域別の森林計画書による。なお、長島町の民有林森林面積は、7,301haである。

(2) 保護林

(面積単位:ha)

名称	位置	面積	概要
冷水イチイガシ等遺伝資源希少個体群保護林	伊佐市 冷水国有林	13.10	暖帯林の代表的な植物であるイチイガシ、アカガシ、シラカシ、イスノキ、タブノキ、ツブラジイの貴重な森林生態系を保護
紫尾山ブナ等遺伝資源希少個体群保護林	出水市 上宮岳国有林 さつま町 大洞国有林	32.11	温帯林のブナと、アカガシ、ウラジロガシなどの暖帯林の樹種が混生した多様性のある貴重な森林生態系を保護
冷水サツマシダ等希少個体群保護林	伊佐市 冷水国有林	1.25	暖帯林の代表的なカシ、シイ類を主体とした広葉樹林で我が国における保護上重要な植物種において「絶滅危惧種ⅠB類」と位置づけられた「サツマシダ」を含め約70種類が生育している貴重な植物群落を保護
ヒノタニシダ希少個体群保護林	出水市 紫尾山国有林	3.27	点在するスギと、暖帯林の代表的なシイ、カシ類との混交林で、我が国における保護上重要な植物種において「絶滅危惧種ⅠB類」と位置づけられた「ヒノタニシダ」が生育している貴重な植物群落を保護

(3) 保安林・自然公園

(面積単位:ha)

区分	名称	面積	備考	区分	名称	面積	備考
保安林	水源かん養保安林	28,501.66		砂防指定地	保健保安林	10.75	保安林兼砂防指定地
	土砂流出防備保安林	235.67		川内川流域 県立公園	普通地区	3,362.07	川内川及び紫尾山周辺 (昭和39年4月1日)
	潮害防備保安林	139.40					
	保健保安林	18.87		鳥獣保護区	普通地区等	1,610.48	鹿倉岳、大口鶴田、奥十層

お問い合わせ先

森林管理署等	郵便番号	所在地	電話	F A X
九州森林管理局	860-0081	熊本市西区京町本丁2番7号	096-328-3500	096-311-1284
北薩森林管理署	895-1813	鹿児島県薩摩郡さつま町轟町35番3	0996-48-4900	0996-48-4901
川内森林事務所	895-0131	鹿児島県薩摩川内市高江町1874-2	0996-27-2710	同 左
宮之城森林事務所	895-1814	鹿児島県薩摩郡さつま町旭町7-3	0996-53-0169	同 左
黒木森林事務所	895-1504	鹿児島県薩摩川内市祁答院町黒木234-2	0996-55-0055	同 左
阿久根森林事務所	899-1625	鹿児島県阿久根市波留717-2	0996-72-0214	同 左
出水森林事務所	899-0207	鹿児島県出水市中央町1564	0996-62-0501	0996-62-0651
大川内森事務所	899-0207	鹿児島県出水市中央町1564	0996-63-7635	0996-62-0651
大口森林事務所	895-2511	鹿児島県伊佐市大口里3067-1	0995-22-0757	0995-22-0754
山野森林事務所	895-2511	鹿児島県伊佐市大口里3067-1	0995-22-7100	0995-22-0754
本城森林事務所	895-2511	鹿児島県伊佐市大口里3067-1	0995-22-0079	0995-22-0754

※ 森林事務所は職員録に記載してある事務所(森林官配置)を記載している。

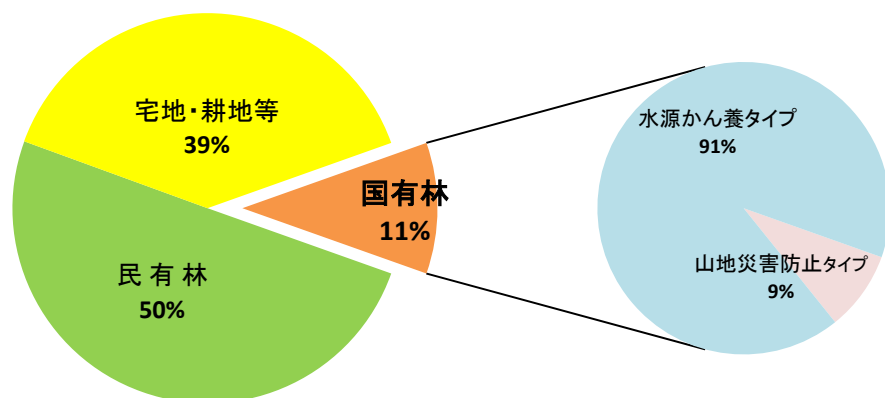
阿久根市に所在する国有林



阿久根市は、鹿児島県北西部の東シナ海に面した地域で、陸・海運の要衝となっています。温暖な気候や長い海岸線に恵まれ、ポンタンで有名な柑橘や、早堀タケノコ、新鮮な海産物など、四季折々の農・海産物の供給基地となっています。また、野生シカと「日本の名松100選」に選ばれた「阿久根大島」には多くの観光客が訪れています。

国有林は、市の中心部を流れる高松川上流域、横座峠を中心に存在し、その殆どが水源かん養保安林で、市の重要な水源となっています。

この国有林は、阿久根担当区に位置づけられ阿久根森林事務所で管理経営しています。



阿久根市の総面積は、13,429haで、国有林は約11%の1,460haを占めています。



横座峠(田代鹿倉国有林)

県道46号線阿久根東郷線の横座峠トンネルの稜線にある横座峠は、大変急峻な地形で、昔から地域間の交流を大きく阻害してきました。

昔は阿久根側から塩を乗せた馬と、東郷側から米を乗せた馬を引いていき、横座峠で塩と米を交換したといわれています。



首塚山(田代鹿倉国有林)

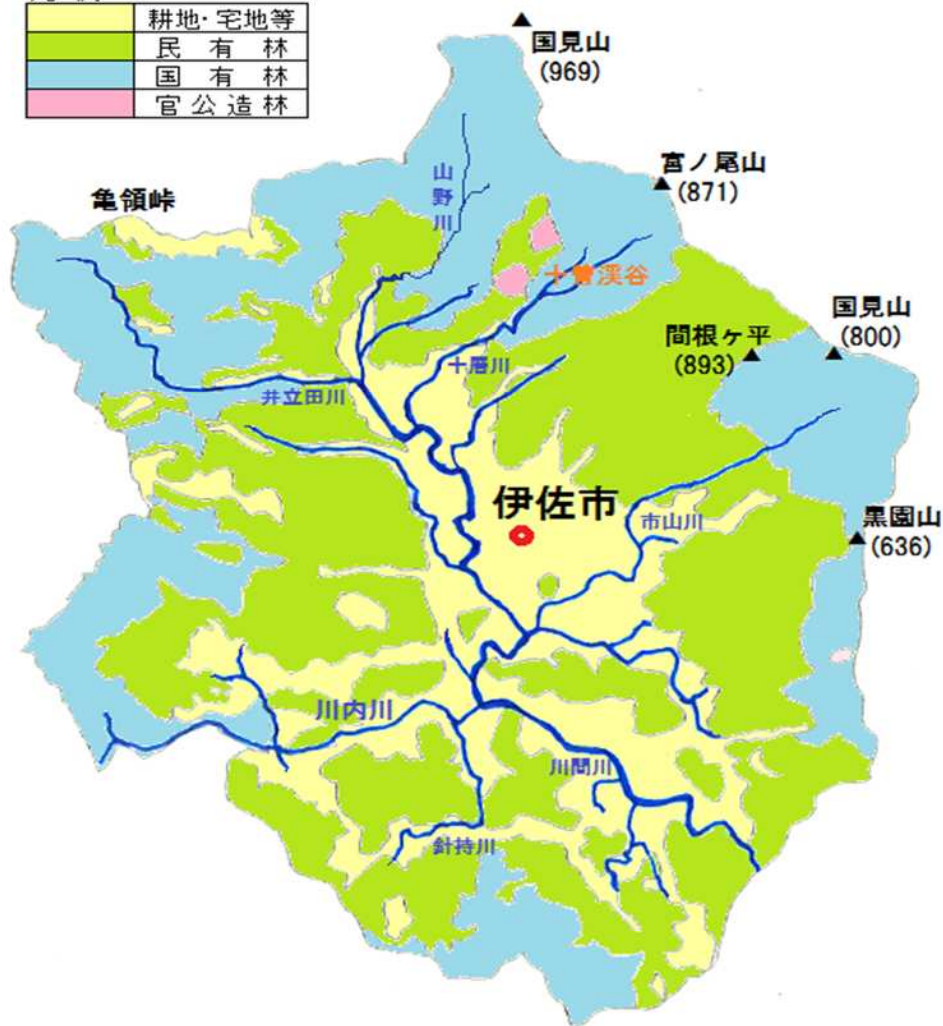
室町時代末期の本家島津氏の一武将出水城主、薩州島津5代実久、その子義虎と隣の東郷城主、東郷重治が阿久根田代地区で前後2回にわたり争った。2回とも東郷側の負け戦となっています。

首塚山(くびづかやま)は、天文17年5月28日の戦いで戦死した東郷勢の73名の首を埋め社を建て祭ったといわれています。

伊佐市に所在する国有林

凡例

	耕地・宅地等
	民有林
	国有林
	官公造林

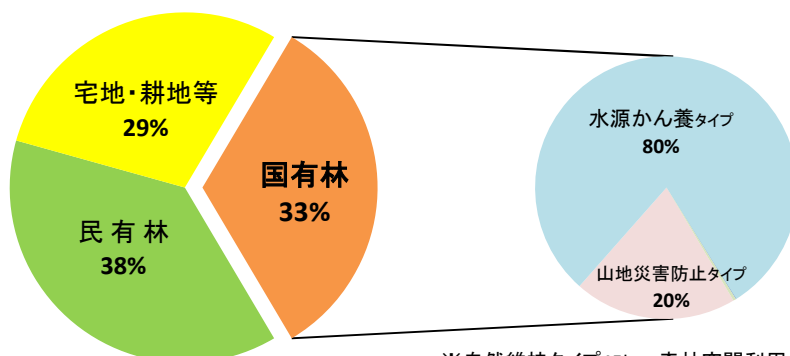


伊佐市は、平成20年11月1日に1市1町が合併し誕生しました。鹿児島県北部に位置し、亀領峠、国見山、宮ノ尾山、黒園山等の山並みに囲まれた伊佐盆地とその中央を流れる川内川の本流と支流で構成されています。広大な土地資源を利用した農・畜・林産物の生産が盛んなほか、日本唯一の金産出を誇る金鉱山があります。

国有林は、川内川支流の羽月川、市山川、針持川などの上流にあり、九州一の品質といわれる「伊佐ヒノキ」やスギ等を産するとともに、水源かん養保安林として緑豊かな大地を潤しています。

また、国有林の十曾溪谷には、滝や「森の巨人達百選」に選ばれた日本一の桜「エドヒガン」などがあり多くの人々が訪れています。

この国有林は、大口、山野、荒平、羽月、本城、前目、宮之城の7担当区に分けられ、大口、山野、本城、宮之城の4森林事務所で管理経営しています。



※自然維持タイプ45ha、森林空間利用タイプ8ha

伊佐市の総面積は、39,256haで、国有林は約33%の12,956haを占めています。



奥十曾溪谷(十層国有林)

森林浴の森(選定:1986年(昭和61年))

水源の森百選(選定:1995年(平成7年))

奥十曾溪谷は、伊佐市の北部を流れる十曾川上流に位置し、十曾池から川沿いに狭い道を5kmほど行ったところがあり、溪谷美が素晴らしく、「白蛇の滝」、「行者の滝」などの多くの滝を見ることが出来るほか、周辺はきれいに整備された平地がありハイキングなどに最適です。



エドヒガン桜(十層国有林)

樹齢:約600年

日本一のエドヒガン桜

伊佐市天然記念物(指定:平成3年)

エドヒガンとその周辺森林を一体的に地域の宝として保護することとして昭和61年4月に学術参考保護林に指定され、その後に地域住民と自然のふれあいの場として地域振興に寄与しています。

また、平成3年6月、旧大口市(現在:伊佐市)の天然記念物に指定されました。



伊佐ヒノキ展示林(布計国有林)

林齢:105年(1914年(大正3年)植林)

材積:484m³(488本)

伊佐ヒノキは、人工林で樹齢60年前後で伐採され一般建築材として全国的に知られ、材質は緻密で弾力性に富み、材の色合いは淡い桜色で美しい木材です。

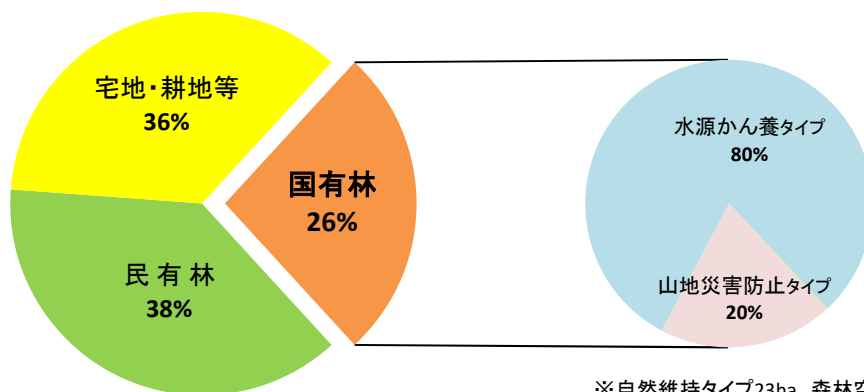
出水市に所在する国有林



出水市は、平成18年3月13日に1市2町が合併し誕生しました。本市は、鹿児島県北西部の熊本県水俣市と接する地域で、北薩地域最高峰の紫尾山や矢筈岳と八代海に囲まれた平野で構成されています。1万羽を超える鶴の飛来や武家屋敷の街並みが残る町として知られています。

国有林は、米ノ津川、高尾野川、野田川の上流にあり、その殆どが水源かん養保安林で、出水平野の水源となっています。

この国有林は、出水、米ノ津、大川内、阿久根の4担当区に分けられ、出水、大川内、阿久根の3森林事務所で管理経営しています。



※自然維持タイプ23ha 森林空間利用タイプ2ha

出水市の総面積は、32,998haで、国有林は約26%の8,717haを占めています。





紫尾山(標高1,067m: 定之段から撮影)

鹿児島県の出水市と薩摩郡さつま町に跨る出水山地の山で、北薩地域の最高峰

紫尾山の地形は中腹から山頂までは急峻で、北薩地方を川内川水系と米ノ津川水系とに大きく二分する扇形の雄大な山容を呈し、山頂からは県内一円はおろか遠くは天草の島々まで一望できる大パノラマを目にすることができ地域のシンボルの山として人々から親しまれています。

山頂周辺の森林は、針広混交林の天然林で、上層木は薩摩半島の南限とされるブナに、アカガシ、アカシデ、ウラジログシ、モミ等の大径木が、下層木にツバキ、カエデ等が自生するなど冷温帯林と暖温帯林が混成する貴重な生態系を形成しています。

このため林野庁では、紫尾山山頂一帯を「林木遺伝資源保存林」に指定し、こうした希少樹種等の生物多様性保全に努めています。

殿様道路(紫尾山国有林、野坂国有林)

出水市の君名川を起点に野坂国有林から紫尾山国有林の稜線沿いを通り、出水と宮之城を結ぶ7km余りの古道

通称「殿様道」、「殿道」又は「殿様道路」などといわれ、藩制時代の参勤交代及び明治10年の西南の役の際に使用されたと伝えられ、また、伊能忠敬の地図の模写(衝立)には、本道のルートが入っており出水市と宮之城を結ぶ最短ルートとして利用されたようです。

出水市の麓を起点に小松を抜け君名川、野坂国有林、紫尾山国有林、石堂山を通り、さつま町に至る道路で、現在は国道328号線から北薩1号線に入り約2.4km進んだところに、延長7km余り(幅員1m程度)が現存しています。

なお、途中の国有林には、「ヒノタニシダ希少個体群保護林」があり、樹齢約100年生のスギが生育するほか、定之段川の源流となる清水を見ることができます。また、国有林内稜線途中の平四郎山からは、国道328号線沿いの豊かな森林と溪流、出水市内が遠望でき見応えがあります。



矢筈岳(標高687m: 矢筈国有林)

矢筈岳は鹿児島県出水市と熊本県水俣市に跨る山で三角錐の鋭峰ですが、八代海方面から見ると、矢筈のような山容を呈しています。四季折々の自然景観が楽しめ、特に矢筈岳の中腹から山頂部にかけてはスダジイ、コジイ等の常緑広葉樹林が広がり、秋にはスダジイに寄生する珍しいヤッコソウを観ることも出来ます。

山頂からは天草や長島等を眺望できるパノラマが広がり、山頂から見れる日の出が美しいことから、正月等には多数の登山者が訪れます。



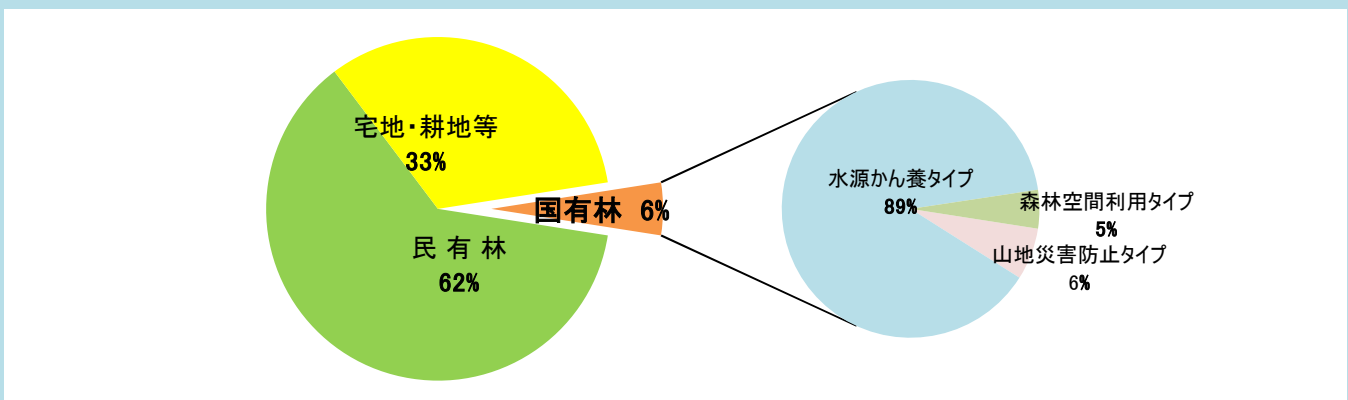
薩摩川内市に所在する国有林



薩摩川内市は、平成16年10月12日に旧1市4町4村が合併し、北薩随一の中核都市として誕生しました。本市は、鹿児島県の北西部に位置し、九州3大河川である川内川下流から中流域と東シナ海に浮かぶ甑島区域で構成されています。東シナ海に面した変化のある海岸線、肥沃な中流域大地、緑豊かな山々、温泉、歴史など多様な山海に広がる特色を持った地域です。

本市における国有林は、川内川支流の八間川、百次川、樋脇川、久富木川等の上流部及び唐浜の海岸部にあり、水源かん養、保健、防潮・防風等の機能発揮に努めています。

この国有林は、川内、黒木、入来の3担当区に分けられ、川内、黒木の2森林事務所で管理経営しています。



薩摩川内市の総面積は、68,292haで、国有林は約5%の3,343haを占めています。





松林「唐浜海岸」(唐山国有林)

名の由来は、「唐船来泊セシカ故ニ名ヲ得タルベシ」から

薩摩川内市北西部の川内川河口に位置する海岸区域の国有林で、約142haの面積を有し、全域が潮害防備保安林に指定されています。海岸は、なだらかな砂浜が2kmにわたって続き、その中程に市民の憩いの場である「唐浜海水浴場」や「唐浜キャンプ場」が整備され親しまれています。

この地域は、特産品としてラッキョウが大々的に栽培され、耕作地を守るように松林が整備されています。



奇岩「銭積石」(西八重山国有林)

名の由来は、お金を積んだように出来ている様から

薩摩川内市入来町の八重山山中に、天然に出来た石積状の奇岩が存在します。火山岩は、生成される環境によって様々な形状になるとのことから、風化の過程で横の綺麗な切れ目が出来て、この奇岩が形成されたものと思われます。

また一説では、その傍らの山腹に二つの巨大な岩がハンバーガー状に重なり合った空洞のその奥に、三角の尖りの「地震スイッチ」と言われるものがあり、これを押すと地震が発生するとのいわれもありますが、それは定かではありません。

霊峰「冠岳」(越陣国有林、長尾国有林)

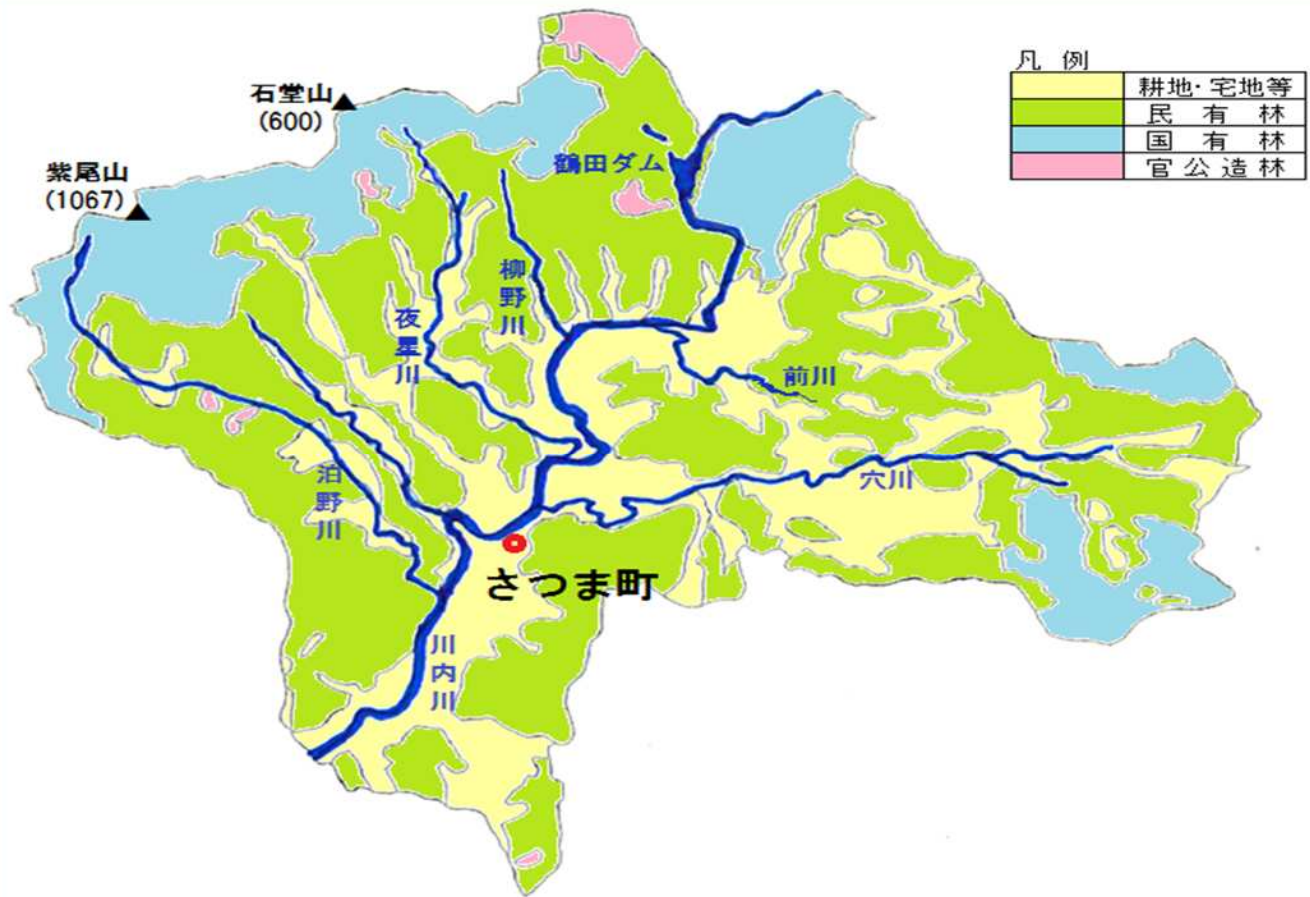
冠岳(かんむりだけ:標高516m)は、古代山岳仏教の発祥の地であり、真言宗開祖の地域として、三国名勝図絵にも記載されています。始皇帝の命を受けた方士徐福が不老長寿の秘薬を求めて渡来し、この地に冠を解いて捧げたので冠岳と呼ばれています。

与謝野鉄幹も西岳路を歩き「風の中枯れススキの原に入る冠岳の北側の道」と詠んでいます。

冠岳は、格好のハイキングコースとして各地から登山者が訪れます。



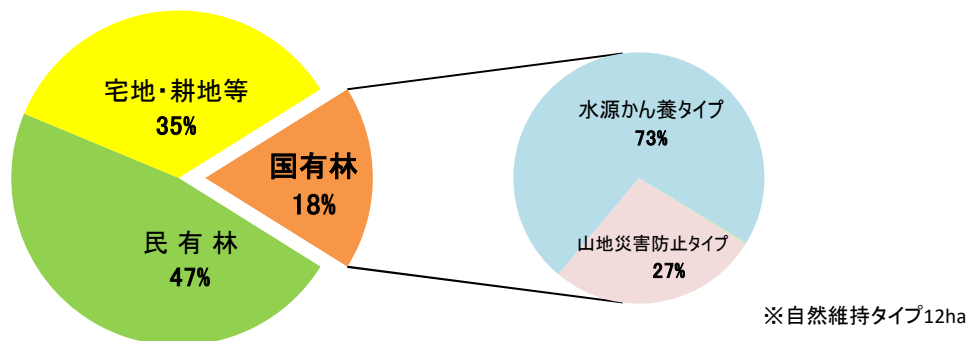
さつま町に所在する国有林



さつま町は、平成17年3月22日に3町が合併し誕生しました。鹿児島県の北西部の川内川中流域に位置し、海に面していない町であり、北薩地域最高峰の紫尾山や石堂山などの山々に囲まれた盆地と中央を流れる川内川とその支流で構成されています。古くから水・陸運の要衝として開けた街で、竹林の里、梅の里、ホタルの里、温泉の町として知られています。

国有林は、川内川中流域の左岸や、川内川支流の泊野川、夜星川、柳野川、前川、穴川などの上流部にあり、農業用水や鶴田ダム等への重要な水源かん養機能を果たしています。

この国有林は、宮之城、黒木の2担当区に分けられ、宮之城、黒木の2森林事務所で管理経営しています。



さつま町の総面積は、30,390haで、国有林は約18%の5,332haを占めています。



大鶴湖



紫尾山(標高1,067m 登尾から撮影)

鹿児島県の出水市と薩摩郡さつま町に跨る出水山地の山で、北薩地域の最高峰

紫尾山は、国道504号線の堀切峠より紫尾山林道が整備され山頂へ車で行けます。また、8合目付近には聖徳太子を主神とする上宮神社があり信仰の山として昔から登られていました。

登山口はさつま町側で、さつま町宮之城から国道328号を出水市方面に約9km行った「登尾」の急坂前(標識有り)で左折し、標識に従い林道を4km前後登った場所です。なお、以前は出水市側にも登山口がありました但现在は使われていません。

山頂周辺の林相は、針広混交林の天然林で、アカガシ、ウラジロガシ、アカシデ、ブナ、モミなどが混成し多様性のある生態系を形成しています。また、巨樹・巨木百選に選ばれたアカガシ等やブナの群生地(薩摩半島で南限)を観ることができ、一部「紫尾山ブナ等遺伝資源希少個体群保護林」に指定されており、山頂からは霧島連山を眺望できる大パノラマが広がっています。



千尋滝(大洞国有林)

紫尾山東部急斜面の中腹付近の林内

鹿児島県薩摩郡さつま町平川の紫尾山にある滝です。国道328号線から「紫尾山ふれあいの森」の表示に従って約2km行くと落差約10mの「一の滝」があり、更に約1km行った駐車場の奥に落差約10mの「二の滝」があります。林道終点から登山道に入り約300mで落差約70mの「千尋滝」の本滝を滝下から眺めることができます。

この滝は、見上げると断崖絶壁の真上から水滴が落ち、大変な迫力があり、滝下からは上部がよく見えません。更にこの本滝の下にも滝が続いており、落差約15mの「三の滝」も滝下から見る事が出来ます。

鶴田ダム・大鶴湖(五里国有林)

川内川中流のさつま町鶴田に所在する九州最大の重力式コンクリートダム

鶴田ダムは、国土交通省九州地方整備局が管理する国土交通省直轄ダムで、高さ117.5mの重力式コンクリートダムです。重力式コンクリートダムとして九州最大の規模を誇ります。

大鶴湖(おおつるこ)は、鶴田ダムによって形成された人造湖で、総貯水容量としては宮崎県の「一ツ瀬ダム(一ツ瀬川)」に次ぎ、平成17年にダム湖百選に選ばれています。





写真：北薩のシンボル「紫尾山(1,067m)」